

2023年7月16日（日）／説教者：國分美生

説教：「今生きている時代状況の中で」

聖書：マタイによる福音書22：23～40

イスラエルの律法は、これを守ることで神の前にふさわしい人間になる、という絶対的な規範でした。この厳しい戒めの根拠は、聖書に何度も繰り返されているとおり、奴隷にされていたエジプトから自分たちを導き出してくださった神のみを信じて、その教えを守ることによって、イスラエルの共同体が生命を得、幸いを得るためのものです。

イエスはこの律法をどのように読み解いていたのでしょうか。前提としてこの律法は、イスラエル共同体の中で、共同体の中心となって父権制を継承していく成人男子のために書かれていました。そして近隣の異邦人たちと自分たちをはっきり区別して、「清浄」対「不浄」の垣根で隔てることも目的でした。そうして聖なる神の民としての国民形成を行おうとしていました。

イエスは言います。「わたしが来たのは、律法や預言者を廃止するためだと思っはなりません。廃止するためではなく、完成するためです」イエスは律法を肯定します。しかし、注意すべきはこの後続く言葉。「あなた方も聞いている通り昔の人は…と命じられています。しかし、私は言います…」イエスはマタイ福音書でその言い回しを5回も重ねて、言っています。まるで律法を否定しているかのように見えますが、イエスが「律法」の教えを、自分自身の時代状況の中で新しく解釈しなおしているのが見て取れます。

律法の専門家がイエスを試そうとして、たくさんある律法の中でどれが、最も重要かと聞きます。イエスは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」そして「隣人を自分のように愛しなさい」、「この二つの掟に律法と預言者たちのすべてがかかっている」と締めくくります。つまり律法の本質は神を愛し、隣人を愛し、すべての命が守られる関係の中で生きていくためのもの、それに尽きる、ということイエスは言うのです。

イエスの態度や態度で示されていることは、神への信仰に基づいて生きることによって幸いな生を得ることが律法の教えの根幹であるということ。そしてそのように生きることが「律法順守」であるということ。私たちは聖書から神との関係を保つための掟を読み取ろうとします。しかしその掟が人を生かすことにならない事例に直面した時、私たちが求められているのは、人を殺すことではなく、人を生かすことを選び取っていくことです。（國分美生）